

平成 29 年度  
研究調査報告

---

【概要版】



四日市市教育委員会教育支援課

第404集 謝名堂 正之

小学校音楽科の表現領域「音楽づくり」が活性化する指導に関する研究  
—タブレットPCを補助的に活用しながら—

第405集 川島 理恵

中学校外国語科における「話すこと[やり取り]」の能力を高める研究  
—スキット作りを手がかりに英語での会話を活性化させるために—

第406集 北保 絵美 奥野 由佳里 宮崎 久美

不登校生徒への初期対応と校内体制についての研究  
—欠席3日目シートの活用を通して—



## 【研究報告 第404集】 概要版

### 小学校音楽科の表現領域「音楽づくり」が活性化する指導に関する研究 — タブレットPCを補助的に活用しながら —

四日市市教育委員会教育支援課 研修・研究グループ 研修員 謝名堂 正之

#### 1 研究の目的

小学校音楽科において「音楽づくり」を活性化させるため、常時活動（リズム遊び・リコーダーリレー）、タブレットPCの補助的活用とその有効性について検証する。

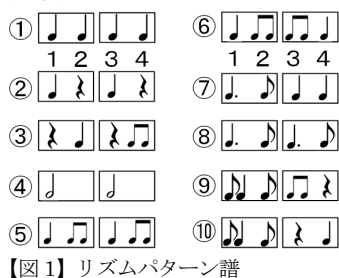
#### 2 研究の内容と方法

##### (1) 「音楽づくり」の活性化

本研究では、「音楽づくり」の活性化について、「意欲的に『音楽づくり』に取り組もうとする児童の増加」「工夫し、見通しをもって『音楽づくり』に取り組む児童の増加」「音を音楽に構成し、演奏する技能の高まった児童の増加」と定義した。

##### (2) リズム遊び（常時活動）

図1にある様々なリズムパターン譜を提示した。教師は、クラベスや電子メトロノームで拍を提示した。児童は、楽譜を読んで、拍に合せて手拍子をした。



【図1】リズムパターン譜

一度に全てのリズムを扱うのではなく、段階的に扱うリズムを増やし、音符やリズムに対する理解を図った。

##### (3) リコーダーリレー（常時活動）

「ソ」「ラ」「シ」の音を使って、1～2小節を即興的に演奏させた。「リズム遊びで使ったリズムを活用する」「しりとりリレーを行う（前の人の旋律の最後の音から、次の旋律をつくる）」など、バリエーションを加えながら旋律づくりをさせた。

##### (4) タブレットPCの補助的活用

本研究では、四日市市の小学校に配備されているタブレットPCに導入されている音楽作成ソフト（シンガーソングライターJ）を用いた。音楽作成ソフトは、音の視覚化ができることから、「和音伴奏再生機」「リズムづくりの補助機能」として活用した。

##### (5) 効果の測定

市内の小学校に協力依頼をし、6年生3クラスを調査対象とした。「リズムをつくってアンサンブル」「和音の音で旋律づくり」にて検証を行った。仮説を検証するために、観点の評価の変化、事前・事後意識調査の結果の変化、タブレットPCの活用

状況などから、「音楽づくり」の活性化が実現できるかを明らかにした。

#### 3 研究のまとめ

常時活動、タブレットPCの補助的活用が、「音楽づくり」の活性化に有効であることが分かった。

##### (1) 意欲的に「音楽づくり」に取り組もうとする児童の増加

「音楽への関心・意欲・態度」3段階の評価の変化では、A評価の児童が、19%から40%に増加した。また、「音楽づくりの活動は楽しいですか（意識調査）」において、肯定の回答をした児童が、54%から83%に増加した。常時活動により、児童が既習事項を基にして、意欲的に「音楽づくり」へ取り組むことができたと考えられる。

##### (2) 工夫し、見通しをもって「音楽づくり」に取り組む児童の増加

「音楽表現の創意工夫」3段階の評価の変化では、A評価の児童が、17%から33%に増加した。リズム遊びにより、活用できるリズムを増やし、「リコーダーリレー」において、即興的な旋律づくりを繰り返すことが、「音楽づくり」の見通しをもつことに有効に働いたといえる。

タブレットPCを「和音伴奏再生機」として活用したことで、児童が旋律づくりや歌づくりに専念することに有効であったと考えられる。また、リズムをつくる際においても「リズムづくりの補助機能」として有効であったと考えられる。

##### (3) 音を音楽に構成し、演奏する技能の高まった児童の増加

「音楽表現の技能」3段階の評価の変化では、A評価の児童が16%から23%に増加した。旋律や歌をつくる活動が停滞していた児童も「仲間と課題を確認する」「仲間のつくる旋律を聴く」中で、仲間の旋律を参考にすることができ、活動が促進された。

また、タブレットPCを「和音伴奏再生機」として活用したことで、つくった旋律や歌を何度も練習することができ、演奏技能の習熟につながったと考えられる。



## 1 研究の目的

帯活動を活用した段階的な会話練習の継続と、コミュニケーション・アプローチのメソッドを取り入れた授業で、即興での会話を繰り返し行うことが、英語での会話を活性化させ、「話すこと [やり取り]」の能力を高めることに有効であることを検証する。また、その結果、英語への興味・関心も高まり、主体的に学ぶ意欲につながることも検証する。

## 2 研究の内容と方法

### (1) 帯活動を活用した段階的な会話練習

習得した言語を自動的に使えるようにするために反復練習が必要となる。しかし、ただ単純に語句や文を繰り返すだけでは実際のコミュニケーションの場面で使用できる表現の定着を図ることは難しい。そこで、帯活動を活用し、段階的な会話練習を取り入れ、表現の定着を図るとともに、話すことに慣れさせる活動を行った。

### (2) 即興での会話練習

コミュニケーション・アプローチを代表する学習活動の1つであるロール・プレイを行ったが、その活動の中に「四日市モデル」のプロセスを取り入れた。即興での会話を成立・継続させるために、特に第2プロセス「問題の特徴づけと表現（解決のための見通し）」に重点を置いて活動を行った。

検証授業では、スキットを作り、そのスキットを読み合うだけで終わらず、生徒が自由に状況を設定し、さらに実際のコミュニケーションに近い、相手がどのように出てくるか分からない状況での会話のやり取りを繰り返し行った。

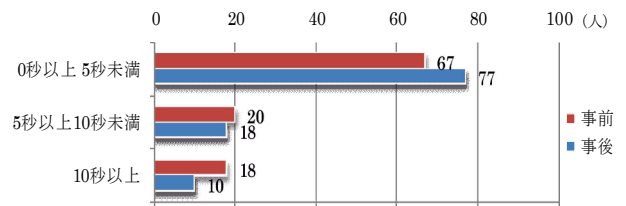
### (3) 効果の測定

ALT とのスピーキングテストと意識調査のデータを収集し、英語での会話の活性化及び「話すこと [やり取り]」の能力を高める指導法の効果と英語への興味・関心や意欲の高まりについて分析を行った。

## 3 研究のまとめ

### (1) 英語での会話の活性化

事後スピーキングテストにおいて、5秒以上10秒未満及び10秒以上の沈黙の時間があつた生徒数が減少した【図2】。また、即興で英語を話すときに感じる難しさの心理的な要因が減少した。会話のやり取りの仕方に慣れ、相づちやつなぎ言葉の表現が定着したことにより、相互に会話のやり取りが活発に行われるようになったと考えられる。



【図2】スピーキングテストでの沈黙の時間の変化 (n=105)

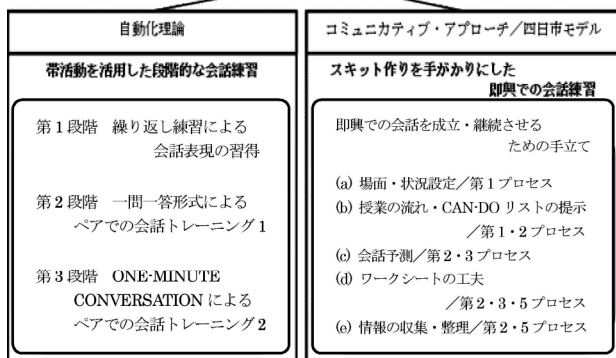
### (2) 「話すこと [やり取り]」の能力の高まり

正確さ（語彙・文法・発音）、流暢さ、方略的能力すべての観点において高まりが見られた。帯活動を継続的に行ったことで、会話のやり取りに慣れてきたこと、また、繰り返し練習することで会話表現が定着したことが、すべての観点の高まりに大きく影響を与えていると考えられる。また、コミュニケーションに近いロール・プレイを繰り返し行ったことで、ALT と会話をする際に英語が使用できるようになったと考えられる。

### (3) 英語への興味・関心や意欲の高まり

英語そのものや英語で「話すこと」が好きだと感じる生徒が増え、72%の生徒が「即興で会話をする」に自信をつけることができたことと回答している。また、「英語をもっと勉強したい」「英語を使ってコミュニケーションを楽しみたい」という将来の英語使用イメージも明確になり、「英語を使ってできるようになりたいこと」の意識も高まったと考えられる。

### 「話すこと [やり取り]」の能力を高める手立て



【図1】「話すこと [やり取り]」の能力を高めるための手立て

【研究報告 第406集】 概要版

不登校生徒への初期対応と校内体制についての研究

－ 欠席3日目シートの活用を通して －

四日市市教育委員会教育支援課 適応指導教室 指導員 北保絵美・奥野由佳里・宮崎久美

1 研究の目的

不登校傾向のある生徒への初期対応を早期に行うために、「欠席3日目シート」を活用し、どのような流れで組織的な支援を行っていくかを提示することが、不登校を未然に防ぐ効果があるのかを検証する。

2 研究の内容と方法

(1) 対象生徒の抽出と課題の設定

本研究では、中学校1年生の不登校発生率を抑えることが、不登校発生率の減少につながると考え、対象を1年生とした。

研究協力校3校の1年生担当の教員を対象にアンケートを行った結果、「欠席3日目シート」が活用しづらいという意見が多かった。その解消のために、シートの具体的な活用方法の提示が必要であると考えた。

従来は、連続欠席が3日あった場合に、「欠席3日目シート」を作成するが、本研究では、月の累積欠席3日を基準にして「欠席3日目シート」を作成することにした。さらに、累計欠席10日に達した場合も対象とした。

(2) 「改訂欠席3日目シート」と「生徒個別支援シート」の連携

「欠席3日目シート」を使用し、アセスメントをしやすくするために「生徒個別支援シート」と連携したシートに改訂した。【図1】

また、「生徒個別支援シート」に具体的な支援例を提示し、支援計画の立案に活用できるようにした。

(3) 校内での組織的支援

「欠席3日目シート」が作成された際に、対象生徒の様子をどの段階であるかの見立てを行う欄を「生徒個別支援シート」に設けた。生徒をA～Cで見立て、学年会での支援が早急に必要か否かを複数の目で判断できるようにした。

その後、校内での会議の持ち方や支援のあり方を示した。

(4) 適応指導教室との連携

支援を検討するための学年会に適応指導教室も参加し、その後の様子などを毎月確認した。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

月の累積欠席3日の生徒を対象にしたことで、不登校傾向のある生徒に対して、その後も継続的に支援が行われた学校もあった。

研究協力校の実践を行った1年生の7月から12月までの不登校発生率は概ね抑えることができた。

また、研究協力校の教員に行った事前と事後のアンケートを比較した結果、「欠席3日目シート」が「活用できていない」と答えた割合は減少し、「まあまあ活用できている」と答えた割合が増加した。さらに、第三者からの助言が得られることで、新たな見立てや支援方法を提示することができたという意見があがった。

しかし、不登校発生率が抑えられたのは「改訂欠席3日目シート」だけの効果ではなく、いろいろな取組が相乗的に働いた結果だと考えられる。

(2) 課題

「改訂欠席3日目シート」の項目に生徒の性格や状態に該当する情報が少ないため、アセスメントに必要な情報が「生徒個別支援シート」にうまく抽出できなかった。

欠席3日でシートを作成したあと、累積欠席の管理が継続してできなかった。欠席管理を担当する役割を設けることも方法の一つであると考えた。

生徒個別支援シート

1 年 1 組 名前 ○○○ ○○○

チェックの視点		性格	行動	学習	人間関係	生活・家庭
自己肯定感が低い	柔軟性がない	活動に消極的・無気力	人の目を気にする	一斉授業では理解できない	集中力が持続しない	コミュニケーションをとるのが苦手
自己肯定感が低い	柔軟性がない	活動に消極的・無気力	人の目を気にする	一斉授業では理解できない	集中力が持続しない	コミュニケーションをとるのが苦手
○	○	○	○	○	○	○

担任から見た生徒の課題

今まで、自分が決めた物事が成功した経験が少なく、自己肯定感が低い生徒である。

学年会での生徒の課題(変更、追加があれば)

数学が特に苦手である。また、友人とも言葉が足りない上にトラブルになることがある。

支援が必要と考えられる場面	学習	人間関係	生活	行事
授業	提出物	ノート	休み時間	部活
○	○	○	○	○

学年会開催日
9 月 4 日 ( 月 )
課題の見直し(約1か月後)
10 月 4 日 ( 水 )

【図1】「改訂欠席3日目シート」と連携した「生徒個別支援シート」

